うるわしの琉球

伊藤久男（改造）

本調子

乙 ○老四 上 中上四上老 ○ 𠂇 ○乙老 上四 乙老 ○

中 ○中五 ○ 五^ハ五^ニ工^ハ尺^ハ尺 ○ 中尺中乙老 老四乙 ○ 五 ○

中 尺中上 四上中尺中四乙 𠂇乙老 ○四上 尺中 ○中 ○

五 ○五工 中王五六五王中 ○ 上 四 中上四乙老 乙^ハ𠂇乙 ○

老 ○四上 尺 中上四上中 ○中五 ○六五王中王中 ○ ○ ○

上 四 中 ○ 中 五 中 ○ 四 四上四 老乙老 ○ 中上四老

中 上^ハ中五 ○中七 ○六中 ○ 尺 ○ 中 工^ハ五 ○七 六

五 工 中上四上中 ○ 六 ○ 工 六 五 ○ ○ ○

一、八重の潮路に 朝虹たちて

うるわしの琉球

ああ あこがれ遠く

残波岬の あだんぼに

旅のころ 若きころ

南風はそよぐよ 琉球

二、青き日傘に 芭蕉布つけて

なつかしの琉球

ああ 乙女清く

首里の都の 石垣に

旅のころ 若きころ

花の赤さよ 琉球

三、弾くは 蛇皮線 泡盛そえて

おもいで 琉球

ああ パパヤのかおり

那覇の港の 夕焼けに

旅のころ 若きころ

波は唄うよ 琉球